

## 真宗（大谷派・東本願寺）への導き

### 《第二回》

## 親鸞聖人のご生涯（その二）



安城御影

親鸞聖人83歳の姿を描いたとされる

### 前号のあらすじ

親鸞聖人は、今から約850年前、京都の日野の里に生まれました。

9歳のとき、仏門に入られ、比叡山に登り、勉強に励まれます。

29歳の時に法然上人の門をたたかれます。

法然上人は、南無阿弥陀仏と称えるならば、だれも平等に救われると説かれました。親鸞聖人にはたいへんな驚きで、これ以降、念仏をよりどころとして生きていかれます。

親鸞聖人35歳の時、朝廷から念仏を止めるようにとの命令があり、法然上人をふくめて8人が流罪となります。

親鸞聖人も罪人として越後（現在の新潟県上越市）に流されます。

### 教化（きょうか）

この流罪を契機に「愚禿釈親鸞（ぐとくしゃくしんらん）」と名のり、恵信尼公と結婚し、家庭生活を営む中で念仏の教えに生きていかれます。

5年の年月を経て罪はゆるされますが、しばらくは越後にとどまり、その後、関東地方にむかわれます。そして約20年にわたり、念仏の教えを多くの人々に語り伝えていかれました。

悲しみ、苦悩の多い生活を送る者にとって、念仏の教えがどれほど大切かを確かめることにもなりました。

その後、親鸞聖人は60歳を過ぎてから京都に帰られます。住居を一カ所に定めることもままならない状況でしたが、最晩年にいたるまで、たくさんの書物を執筆し続けられました。

法然上人をとおして出遭われた平等の救いの道を浄土の「真宗」と掲げ、それを後世の人々に伝えるためでした。

### 入滅（にゅうめつ）

親鸞聖人は1262年（弘長2年）11月28日、90歳の生涯を閉じられました。

念仏に生き、浄土の真宗をあきらかにし続けられた一生でした。

完